

第4節 問題行動と背景要因との関連

前項までに求められた各尺度得点、及び親しい友人の有無と、問題行動との関連性を、性別も含めた2要因分散分析により検討した。ただし、問題行動の実体験については、「ない」と答えたものを「ない」に、それ以外に回答したものを「ある」とした。問題行動の「いけなさ」については、「全く思わない」「あまり思わない」と回答したものを「いい」とし、「どちらでもない」としたものは「どちらでもない」とし、「ややそう思う」「とてもそう思う」としたものを「いけない」とした。問題行動を見かけたら友だちを「とめるか」については、「とめない」「あまりとめない」としたものを「とめない」、「どちらでもない」としたものは「どちらでもない」とし、「ややそう思う」「とてもそう思う」としたものを「とめる」とした。

第1項 問題行動と道徳的人生観との関連

①問題行動の実体験の有無と道徳的人生観

高校生の道徳的人生観と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、道徳的人生観得点を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-1-1に示す。

問題行動の実体験の有無についての主効果による有意差のあった問題行動は、無免許運転、自転車・バイク盗み、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際の5種類であった。そのどれにおいても、実体験の「ない」ものの方が「ある」ものよりも道徳的人生観得点が高かった。従って、これらの問題行動の実体験がない者は実体験がある者に比べて、より道徳的に生きていこうと思っていることが示された。

表4-1-1 問題行動の実体験と道徳的人生観

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
無免許	3.58(0.75)	3.33(0.71)	3.63(0.63)	3.29(0.69)	F(1, 574)=8.74** (体験)
自転車盗	3.63(0.72)	3.12(0.75)	3.64(0.62)	3.00(0.72)	F(1,574)=30.76** (体験)
暴行	3.65(0.76)	3.39(0.71)	3.64(0.64)	3.38(0.56)	F(1,571)=11.62** (体験)
薬物	3.56(0.73)	3.08(1.03)	3.61(0.64)	3.10(0.72)	F(1,574)=4.99* (体験)
軽援交	3.59(0.74)	2.92(0.65)	3.62(0.64)	3.11(0.36)	F(1,571)=9.34** (体験)

*p<0.05, **p<0.01

②問題行動に対する意識と道徳的人生観

高校生の道徳的人生観と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を探索的に検討するため、道徳的人生観得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-1-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差のあったものは、飲酒、無免許運転、自

転車バイク盗み、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の7種類であった。そのどれにおいても、問題行動を「いけない」もしくは「どちらでもない」と思うものの方が「いい」と思うものより道徳的人生観得点が高かった。すなわち、これら7種類の問題行動をいけないことと思っている被験者は、いけないこととは思わないものに比べて、より道徳的に生きていこうと思っていることが示された。

また、恐喝については、交互作用がみられた。男子においては、恐喝を「どちらでもない」「いけない」と思っているもののほうが、「いい」と思っているものより道徳的人生観得点が高く、女子においては恐喝を「いい」と思っているもの、「いけない」と思っているもの、「どちらでもない」と思っているものの順に道徳的人生観得点が高かった。すなわち、男子は恐喝をいけないと思っているものの方が、より道徳的に生きていこうと思ひ、女子においては、恐喝をいいと思っているほうが、より道徳的に生きていこうと思っ
ていることが示された。

表4-1-2 問題行動に対する意識と道徳的人生観

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでも	いけない	いい	どちらでも	いけない	
飲酒	3.46(0.77)	3.72(0.58)	3.72(0.69)	3.53(0.63)	3.57(0.60)	3.84(0.64)	F(2,572)=8.34**(いけなさ)
無免許	3.19(0.94)	3.43(0.70)	3.64(0.68)	3.29(0.68)	3.33(0.69)	3.66(0.62)	F(2,572)=10.99**(いけなさ)
自転車盗	2.93(1.07)	3.30(0.87)	3.61(0.68)	3.33(0.84)	3.13(0.64)	3.63(0.63)	F(2,571)=8.52**(いけなさ)
恐喝	2.80(1.27)	3.60(0.56)	3.58(0.70)	4.21(0.86)	2.82(0.76)	3.61(0.63)	F(2,571)=8.50**(交互作用)
薬物	3.20(1.08)	3.42(0.83)	3.59(0.68)	3.41(1.15)	2.98(0.33)	3.63(0.62)	F(2,572)=6.00**(いけなさ)
軽援交	3.36(0.88)	3.62(0.71)	3.61(0.65)	3.46(0.74)	3.44(0.57)	3.71(0.61)	F(2,572)=6.00**(いけなさ)
重援交	3.19(0.94)	3.51(0.69)	3.68(0.65)	3.30(0.88)	3.46(0.64)	3.65(0.62)	F(2,567)=9.83**(いけなさ)
性強要	2.99(1.20)	3.40(0.65)	3.60(0.68)	3.52(0.95)	3.44(0.64)	3.63(0.64)	F(2,567)=3.99*(いけなさ)

*p<0.05, **p<0.01

③問題行動に対する姿勢と道徳的人生観

高校生の道徳的人生観と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、道徳的人生観得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-1-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差のあったものは、飲酒、無免許運転、自転車バイク盗み、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の9種類であった。それらの問題行動を「とめる」と思うものの方が、「とめない」と思っているものよりも、道徳的人生観得点が高かった。

従って、これらの問題行動を友人がしているのを見たとき、友人をとめると思っている者の方が、とめないと思っている者に比べてより道徳的に生きていこうと思っ
ていることが示された。

表4-1-3 問題行動に対する姿勢と道徳的人生観

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
飲酒	3.49(0.76)	3.70(0.58)	3.80(0.68)	3.55(0.62)	3.56(0.62)	3.83(0.67)	F(2, 572)=5.89***(とめるか)
無免許	3.34(0.83)	3.55(0.56)	3.67(0.70)	3.44(0.73)	3.36(0.72)	3.69(0.59)	F(2,572)=9.91***(とめるか)
自転車盗	3.28(0.85)	3.45(0.79)	3.67(0.66)	3.35(0.80)	3.20(0.62)	3.67(0.61)	F(2,572)=13.11***(とめるか)
盗み	3.22(0.96)	3.40(0.73)	3.64(0.67)	3.35(0.79)	3.63(0.78)	3.62(0.63)	F(2,571)=4.70***(とめるか)
暴行	3.27(1.04)	3.45(0.63)	3.63(0.69)	3.19(0.87)	3.42(0.65)	3.64(0.63)	F(2,567)=5.76***(とめるか)
薬物	3.28(1.04)	3.50(0.92)	3.59(0.68)	3.23(0.93)	3.28(0.78)	3.64(0.62)	F(2,571)=5.08***(とめるか)
軽援交	3.37(0.88)	3.49(0.70)	3.69(0.64)	3.48(0.76)	3.49(0.64)	3.67(0.61)	F(2,568)=7.43***(とめるか)
重援交	3.28(0.97)	3.55(0.57)	3.67(0.66)	3.32(0.88)	3.47(0.64)	3.64(0.62)	F(2,565)=7.06***(とめるか)
性強要	3.01(0.93)	3.51(0.62)	3.66(0.68)	3.50(0.80)	3.41(0.67)	3.65(0.63)	F(2,564)=8.30***(とめるか)

*p<0.05, **p<0.01

第2項 問題行動と感情的冷淡さとの関連

①問題行動の実体験の有無と感情的冷淡さとの関連

高校生の感情的な冷淡さと性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、感情的な冷淡さ得点を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-2-1に示す。

問題行動の実体験の有無についての主効果による有意差のあった問題行動は、飲酒、自転車バイク盗み、盗み、恐喝、暴行、薬物、軽度の援助交際、性行為の強要の7種類であった。実体験の「ない」ものの方が「ある」ものよりも感情的な冷淡さ得点が高かった。すなわち、これら8種類の問題行動の実体験がある被験者は、実体験がない被験者に比べて、より感情的には冷淡であることが示された。

表4-2-1 問題行動の実体験の有無と感情的冷淡さ

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
自転車盗	2.19(0.68)	2.54(0.83)	2.11(0.68)	2.36(1.01)	F(1,578)=7.57***(体験)
盗み	2.20(0.71)	2.46(0.72)	2.09(0.68)	2.32(0.80)	F(1,577)=9.34***(体験)
恐喝	2.20(0.67)	3.04(0.87)	2.11(0.69)	2.63(1.94)	F(1,578)=6.70*(体験)
暴行	2.19(0.72)	2.35(0.71)	2.10(0.69)	2.28(0.72)	F(1,578)=4.39*(体験)
薬物	2.21(0.68)	3.16(0.90)	2.10(0.68)	3.75(0.43)	F(1,577)=33.33***(体験)
軽援交	2.23(0.71)	2.63(0.71)	2.11(0.68)	2.91(1.21)	F(1,574)=9.09***(体験)
性強要	2.23(0.70)	2.75(0.82)	2.11(0.69)	2.67(1.18)	F(1,572)=5.73*(体験)

*p<0.05, **p<0.01

②問題行動に対する意識と感情的冷淡さとの関連

高校生の感情的な冷淡さと性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、感情的冷淡さ得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-2-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差のあったものは、無免許運転、自転車窃盗、盗み、恐喝、暴行、薬物、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の9種類であった。そのどれにおいても、問題行動を「いけない」もしくは「どちらでもない」と思うものの方が「いい」と思うものより感情的な冷淡さ得点が低かった。すなわち、これら9種類の問題行動をいけないことは思わない被験者は、いけないことと思うものに比べて、より感情的には冷淡であることが示された。

表4-2-2 問題行動に対する意識と感情的冷淡さ

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでもない	いけない	いい	どちらでもない	いけない	
無免許	2.49(0.95)	2.38(0.63)	2.18(0.65)	2.53(0.77)	2.25(0.82)	2.07(0.67)	F(2,575)=8.51**(いけなさ)
自転車盗	2.99(1.00)	2.41(0.82)	2.18(0.65)	2.58(0.93)	2.68(0.63)	2.09(0.68)	F(2,575)=11.39**(いけなさ)
盗み	2.77(1.08)	2.98(0.75)	2.18(0.65)	1.96(0.38)	2.60(0.80)	2.10(0.69)	F(2,576)=9.75**(いけなさ)
恐喝	2.54(1.03)	2.78(0.43)	2.21(0.70)	2.16(1.37)	3.25(1.06)	2.10(0.67)	F(2,575)=9.37**(いけなさ)
暴行	2.74(0.90)	2.36(0.69)	2.15(0.66)	2.77(1.12)	2.53(0.89)	2.07(0.66)	F(2,572)=13.01**(いけなさ)
薬物	2.62(0.87)	2.52(0.83)	2.19(0.67)	2.59(1.01)	2.75(0.74)	2.09(0.67)	F(2,575)=10.14**(いけなさ)
軽援交	2.30(0.77)	2.33(0.71)	2.21(0.69)	2.27(0.88)	2.32(0.58)	2.01(0.64)	F(2,572)=5.00**(いけなさ)
重援交	2.54(0.84)	2.37(0.70)	2.11(0.64)	2.35(0.93)	2.39(0.73)	2.06(0.66)	F(2,570)=10.93**(いけなさ)
性強要	2.87(1.04)	2.47(0.58)	2.17(0.66)	2.46(1.17)	2.42(0.77)	2.08(0.67)	F(2,570)=9.41**(いけなさ)

*p<0.05, **p<0.01

③問題行動に対する姿勢と感情的冷淡さ

高校生の感情的な冷淡さと性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、道徳的人生観得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-2-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差のあったものは、無免許運転、自転車窃盗、盗み、恐喝、暴行、薬物、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の9種類であった。これらの問題行動を「とめない」と思うものの方が、「とめる」と思っているものよりも、感情的な冷淡さ得点が高かった。

すなわち、これら9種類の問題行動を友人がしているのを見たとき、友人をとめないと思っている被験者の方が、とめると思っている被験者に比べて、より感情的には冷淡であることが示された。

表4-2-3 問題行動に対する姿勢と感情的冷淡さ

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
無免許	2.36(0.82)	2.50(0.69)	2.13(0.62)	2.22(0.77)	2.40(0.80)	2.05(0.65)	F(2,576)=9.51**(とめるか)
自転車盗	2.56(0.82)	2.31(0.73)	2.11(0.62)	2.34(0.81)	2.63(0.90)	2.05(0.64)	F(2,576)=14.05**(とめるか)
盗み	2.62(0.98)	2.48(0.57)	2.15(0.63)	2.38(0.86)	2.53(0.91)	2.09(0.67)	F(2,575)=9.89**(とめるか)
恐喝	2.49(0.84)	2.43(0.68)	2.18(0.69)	2.59(0.95)	2.48(0.90)	2.08(0.66)	F(2,575)=7.92**(とめるか)
暴行	2.43(0.86)	2.54(0.71)	2.15(0.67)	3.15(1.04)	2.29(0.75)	2.08(0.67)	F(2,570)=13.92**(とめるか)
薬物	2.35(0.84)	2.88(0.76)	2.20(0.68)	2.66(0.81)	2.49(0.96)	2.09(0.67)	F(2,574)=10.72**(とめるか)
軽援交	2.38(0.77)	2.42(0.68)	2.10(0.66)	2.23(0.77)	2.28(0.77)	2.06(0.65)	F(2,569)=8.43**(とめるか)
重援交	2.52(0.82)	2.32(0.69)	2.10(0.64)	2.35(0.79)	2.66(0.77)	2.04(0.65)	F(2,568)=15.878**(とめるか)
性強要	2.58(0.87)	2.34(0.64)	2.16(0.67)	2.25(0.74)	2.37(0.77)	2.07(0.67)	F(2,568)=6.52**(とめるか)

*p<0.05, **p<0.01

第3項 問題行動と学校に対する意識との関連

①問題行動の実体験の有無と学校に対する意識

高校生の学校に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち、『学校適応—脱学校尺度得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。『学校適応—脱学校尺度得点』の高さは、現実の学校生活への適応度の高さを意味している。有意な結果のあらわれたものを表4-3-1に示す。

問題行動の実体験の有無について主効果による有意差があった問題行動は、無免許運転、自転車・バイク盗み、盗み、暴行、薬物・ドラッグの5種類であった。それらのすべての問題行動について、実体験が「ない」者の方が「ある」者よりも学校に対する意識尺度得点が高かった。すなわち、これらの問題行動の実体験がない者は、実体験がある者に比べて、現実の学校生活への適応が高いことが示された。

表4-3-1 問題行動の実体験の有無と学校に対する意識

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
無免許	3.09(0.75)	2.67(0.83)	3.01(0.75)	2.65(0.73)	F(1,567)=11.74**(体験)
自転車盗	3.10(0.78)	2.64(0.63)	3.02(0.74)	2.46(0.81)	F(1,567)=18.93**(体験)
盗み	3.05(0.79)	2.92(0.75)	3.04(0.74)	2.63(0.72)	F(1,566)=9.33**(体験)
暴行	3.13(0.79)	2.86(0.74)	3.01(0.76)	2.89(0.68)	F(1,567)=4.94*(体験)
薬物	3.04(0.78)	2.59(0.72)	3.00(0.75)	2.18(0.44)	F(1,567)=6.30*(体験)

*p<0.05, **p<0.01